

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076600081		
法人名	社会福祉法人朝倉恵愛会		
事業所名	グループホームローズハウスいしずえ	ユニット名	
所在地	福岡県朝倉市入地2728-1		
自己評価作成日	平成25年6月21日	評価結果市町村受理日	平成25年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年7月5日	評価確定日	平成25年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年8月に、旧特養跡にラブリーローズあさくら(サービス付き高齢者向け住宅)が開所する。新たな出会いもあり再び活気のある一帯に変貌すると思われる。ご利用者お一人お一人の思いを大切に、受容しながら寄り添う対応をしている。また馴染みの関係を絶やさないよう、定期的にデイサービスとの交流を図り、カラオケ・舞踊見学等、楽しませている。道を隔てて、バラ園や鳥小屋(2ヶ所)があり、目に鮮やかな極彩色の鳥たち(カタリーナインコ・タイハク他)十数羽が散歩に来るのを待っててくれる。中でもオウムとの言葉のやりとりは、ご利用者の楽しみの一つでもある。職員は絶えず変転する現実に向き合い、数多の迷路に突き当たった時、初代理事長の遺訓「初心にかえれ」を、行動指針とし業務にあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“ローズハウスいしずえ”のベランダにはユリや向日葵などの季節の花が咲いており、ご利用者が水やりをして下っている。ご利用者の重度化も見られる中、どのような事なら手伝って頂けるかを見極め、潜在的な能力やお好きな事(塗り絵や貼り絵、編み物・写経・踊りなど)を引き出すように努めている。職員のアイデアも豊富で、手作りのローズポプリを浴槽に浮かべたり、職員が手作りしているカスビ海ヨーグルトを毎朝の食卓に出されている。年々“外出”への意識も高まり、ホームの前に広がる“バラ園”の散歩と共に、季節の花見にも行かれている。職員全員の頑張りは素晴らしく、ご利用者のお気持ち(楽しみや寂しさ等)に寄り添い、必要に応じて24時間の行動記録を残し、原因分析も行いながら温かいケアを続けてこられた。職員同士で悩み、意見交換を続ける中で次第に混乱が落ち着き、お好きな事に集中できるまでに症状が改善した方もおられ、家族の方も喜んで下さった。法人全体の取り組みも行われ、通所や居宅の家族も一緒に軽食する家族交流会(ふれあいの会)も始められており、ご本人と家族、そして地域の方と共に地域の認知症ケアのサポートを目指し、地域貢献を根気強く続けているホームであった。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲示しており、毎日出勤時に理念の唱和をし、業務に入っている。運営推進会議でも、理念を公表し、地域密着型として実践に繋げている。	理念にもある”その人となり”を知る事を大切にしている。事務所には“微笑み美人”と言う言葉も掲示し、どんなに忙しくても、職員は微笑みを忘れないように努めている。地域の一員として、地区の花見や小学校の運動会に招待され、地域の方達から親しく声をかけて頂き、ご利用者も喜ばれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお花見や小学校の運動会、夏祭りなど地域の行事には参加している。また、施設の前にはバラ園があり、地域の方の交流の場となっている。	小学生の通学時に2階のホームに向かって手を振ってくれる場面もあり、ご利用者も喜ばれている。朝倉町の夏祭りやどんど焼きにも参加しており、夏祭りではご利用者も一緒に踊りに参加する事ができた。1階の地域交流センターに踊りのボランティアの方が来て下さり、地域の方と一緒に観劇する事ができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交流や運営推進会議等へ、駐在所の方の出席依頼をした。パトロールの際、立ち寄っていただく事で顔みしりとなり、認知症の方の支援の方法を話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、ご家族や地域の方から情報や意見・要望を聞いて、できることから、要望に応え、サービス向上に活かしている。	駐在所の方も参加して下さい、“オカシ詐欺”等の詳細を説明して下さい。地域代表の方からも認知症ケアの視点を教えて頂き、家族からもドライブ時の協力を頂くお言葉があり、ご利用者支援の視点で意見交換が行われている。消防団の方も参加して下さい、協力体制が深まってきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護に関する疑問点や、問題点、不明な点があったら、市町村に相談している。	書類の書き方等で不明点がある時は適宜相談し、アドバイスを頂いている。運営推進会議にも市の担当者や地域包括の係長が参加して下さい、色々な情報を頂く事ができている。インフルエンザの発生時にも市に連絡し、届出などの指示を頂いた。今後も朝倉市役所(本庁)との連携を取りながら、地域貢献を続けていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束に関する研修会を行っている。身体拘束排除宣言を掲示、日々確認し拘束がもたらす、弊害は理解しているが、危険回避の為、玄関は時間帯を指定し、施錠をしている。	ご利用者の感情が不安定な時は職員が寄り添い、行動の背景を分析している。他のユニットとも協力し、“見張っている”と思われないようなケアに努めている。ユニット間の行き来は自由に行われ、朝の9時から9時45分までは玄関の鍵を開放している。ご本人の思いを受容できるよう、職員間の意見交換を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、日頃より研修会を行い、虐待と思われる行為もしない事等、申し合わせている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用しておられる方は、おられないがホーム内に資料も備えており、運営推進会議等でご家族にも説明をしている、また外部研修にも参加している。	運営推進会議を利用して、制度に関する説明をしている。入居時に必要な方には管理者が制度を説明し、入居後の家族関係も丁寧に把握しながら、管理者とケアマネが必要な性の検討を行っている。必要に応じて、再度、家族に説明を行う機会も作られている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び、重要事項説明書は入所時に管理者からご家族に提示、説明を行っている。質問や疑問点など十分に説明し理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの電話の時や来園時、気軽に声掛け易い雰囲気をつくり、ご家族の希望や心配事等を聞いている。意見・要望は職員間で共有し対策検討している。運営推進会議でも現状と対策を報告している。	家族の来訪時に日頃の状況報告をしている。家族から「リハビリをしてほしい」「外出させてほしい」という要望を頂き、園庭の散歩等を増やしている。運営推進会議でも「ドライブの時などに協力をしたい」と言う申し出をご家族から頂き、有難く思っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出された提案書の活用をしており、運営に反映させている。提案の内容によっては、評価に加点がある。	業務の中や会議の中でも職員からのアイデアが出ており、毎日の連絡ノートも必ず確認し、情報共有している。常務や管理者との話し合いも行われ、職員の意見は提案書にて提出し、改善を図っている。“働きやすい職場作り委員会”もあり、職員アンケートも行われ、備品関係等の要望も含めて意見を把握する体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己チェック表にて把握し、月一回の面談を管理者が行い職員の要望や意見を聞き取り、やりがいのある、良い職場環境に努めている。また職能評価票を作成し、向上心が持てるよう整備している。働きやすい職場づくり委員会も活動している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用については性別や年齢等を理由に採用対象から排除はしていない。一人一人の得意なことを活かして頂く職場づくりをしている。またいろいろな勉強会や研修会に参加しスキルアップできるよう支援している。	職員は経験が長く、熟練している職員も多い。職員のチームワークも良く、向上心もあるため、研修参加や資格取得への支援もしている。新人職員には指導担当職員が半年付き、不安などの思いも聞くようにしている。年に1～2回は食事会などでもしており、海外旅行や国内旅行にも行けるシステムも作っている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習・啓発に関する研修も全員参加にて行っており人権学習の機会を設けている。	理事長は、ご利用者への言葉遣いを大切にしており、法人全体の研修会等でも職員に伝えている。管理者は“自分の親だったら…”と言う視点を持つ事の大切さと共に、“その人となりを見極め、その方の世界を共有する”視点を職員に伝えている。行動障害は“ご本人からのサイン”と伝え、支援方法を検討している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は毎月自己評価を提出し、管理者と月1度の面談、代表者は年2回、日頃の状況等面談し、ひとり一人の思いも聞いている。新人職員は6か月間指導者がつき、レポート提出や外部研修を受けスキルアップにつなげている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、相互の施設見学、業務、時間体制、料金設定、記録に関する事等を学んでいる。内容については他職員にも情報を共有している。スタッフセミナーにはできるだけ参加するよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの聞き取り調査や提出書類から、ご本人が困っている事、不安な事を傾聴し、ご本人の思いを汲みとり、何気なく話題を提供しながら、情報収集に努める。安心して過ごせる環境づくりにて、信頼関係の構築に努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントによりご本人の日頃の様子等の情報を伺いながら、ご家族の思いも傾聴し関係づくりに努めている。何が今必要なかを十分に話し合いし納得が得られるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、自宅訪問の時間をとり、在宅時の生活を目と耳でアセスメントを行っている。ご利用中の介護サービスや医療機関担当者や主治医より情報収集のうえ、ご本人、ご家族の思いに沿った必要な支援計画作成に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者がどのような事なら手伝っていたかを見極め、「私も役に立ちたい」「私にもできた」という気持ちを引き出すよう、それぞれに役割を持っていただき支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の状況や思いなどを、ご家族が来園された時や電話などで、お伝えしている。ご家族の要望、心配事等を気軽に話していただき、ご本人との絆を大切にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで生活されてあった地域の方や、親戚関係等、いつでも面会できる体制をとっている。デイサービスご利用者からの面会希望があれば連携をとり、その際、移動中の見守り等の支援を行い関係が途切れないよう努めている。	アセスメントシートに馴染みの場所の項目もあり、把握できた内容も記録に残している。家族等の面会も多く、ご近所の方や1階の通所利用の方も訪ねて来られる。ゲートボールの見学時にも地域の方と昔話に花が咲く事もあり、三連水車や甘木歴史資料館等の馴染みの場所にお連れし、昔を思い出して頂いている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の状況・個性を考慮しながら、ご利用者間関係づくりを行っている。ご利用者同士で会話が弾むよう、職員の声かけも工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者が寄贈された花(胡蝶蘭・君子蘭)が今年も咲き、写真を添えて、便りをお送りしている。ご近所の散歩等に出会えた時、近況を聞きながら、相談があれば聞いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の対話の中で希望・意向の把握のできる方に対しては行っている。困難な方には日頃の状況こまめに把握したり、少ない言葉の中から気持ちを汲みとり、ご本人本位に検討をおこなっている	入居時にセンター方式を家族に記入して頂いている。入居後も日々の関わりの中で、ご利用者の悲しさや辛さ、楽しみも含めて、ゆっくり話をする時間を作っている。自立支援の視点も大切に、どのようにしたら、ご利用者から笑顔を引き出せるのかを考えると共に、行動の背景を分析し、安全にも配慮した支援を続けている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのご家庭での生活の延長として馴染みの物を持参していただき、生活スタイルが変わらないように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の会話や生活の中での表情や心身状態等を細かく観察し現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度カンファレンスを行い問題点を職員間で話し合い、ご本人に安心して暮らして頂くための介護計画を作成している。	意向を大切にしながら、ご本人の潜在的な能力やお好きな事(塗り絵や貼り絵、編み物・写経・踊りなど)を引き出すように努めている。リハビリの視点も盛り込み、自主的な行動に繋がるきっかけ作りを続けている。24時間生活変化シートも記録し、主治医にもアドバイスを頂いている。介護計画の改良も行われ、日課表も作られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯と記録を分別記録し、勤務交替時に申し送りをしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関や主治医の受診支援等、必要に応じて行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	読み聞かせボランティアの方々との交流、地域で催される行事への参加を行い外出の支援を行うようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前より利用されていた主治医への受診を継続して頂くようにしている。月に1度居宅療養管理指導をお願いしている。	人員体制と合わせ、家族との関わりを大切にしており、通院は家族にお願いしている。体調などを記入した用紙を医師に渡して頂き、受診報告も受けている。月に2回往診して下さる先生もおられ、日常的にも相談し、専門医への紹介状も頂いている。職員の観察力も高まり、小さな変化も主治医に相談するようにしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤ではないが月に12日間、看護師が勤務しており、逐次報告しながら対応の指示をもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側が対応に困らない為に、できるだけ詳細に情報を記入し、情報提供書にて情報提供行っている。退院前には状況を見に行き、病院側と相談をしながら、今後の指示も受け、退院後の計画に繋げている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の来園時に、おりにふれてご意向を伺い、今後の方針を決めている。看護ステーションとの協働も視野に入れているが、現在使用されている方はいない。	入居時に終末期確認事項に記入して頂いている。重度化している方もおられ、巡視も1時間毎に行い、体調変化時は主治医に相談している。エンジェルケアマニュアルも作成され、職員の研修も行われている。重度化した時には医師の指示のもと、ホームで対応できる限りのケアが行われている。特養等への申し込みをされている方もおられ、適宜、入所や入院の検討も行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応セミナーや各種研修に出席し、冷静に対応できるようにマニュアルも作成している。机上にテキストを設置しており、いつでも閲覧できるようにしている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎晩宿直者と夜勤者で避難訓練を行っている。また年に2回消防署の立ち合いにて、防火避難訓練を行い終了時には、今後に向けた指導助言を受けている。災害時には地域の方への協力を依頼している。独居高齢者の避難の場ともなっている。	消防団の方も施設内の配置図を見て下さり、一緒に訓練に参加して下さっている。災害発生時、地域の方へ救護活動の協力を依頼し、地域の区会長と協定書を交わしている。災害に備え、宅配の事業所からも配給を頂ける予定になっており、ホームでも懐中電灯や急救箱、ガスコンロ、飲料水、缶詰などを準備している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の人格を尊重し言葉遣いに注意している。ご本人のプライバシーに関する事は、ご家族と同意書を交し保護に努めている。個人の記録物は保管し、目に触れないようにしている。	基本は標準語(丁寧語)を使用しているが、温かい雰囲気心をかけている。“自分だったら…、自分の親だったら…”と言う意識を持ってケアをされており、排泄に関しても自尊心を大切に、プライドが傷つかない声かけをするように努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望やご家族からの情報により推測しながら言葉かけし、ご本人の言葉を引き出すようにしている。行動をよく観察し思いを見出せるように努め、そのお気持ちに寄り添えるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のスケジュールはあるが、自分のペースで生活していただくよう対応している。また、その日の体調に合わせ個別に支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や体調に合わせ言葉かけを行い、衣類の調整を行う。またスカーフ等を組み合わせおしゃれを楽しんでいる。化粧時口紅やマニキュア等各自選んでいただき対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の能力や体調に合わせ職員と一緒に配膳、後片付け等をお手伝いして頂くようにしている。食事時には音楽をかけ楽しい雰囲気を演出している。	ご飯はホームで炊いており、10年物の手作りのカスジ海ヨーグルトも毎朝食べられている。日々のケアの時間を増やすために24年10月から3食ともクックチルドを利用している。味付けの感想も業者に伝え、調理に活かして頂いている。お正月や創立記念祝賀会には母体である施設の厨房よりお祝いの膳が届けられている。	今後も家庭的な雰囲気を作るために、食事作りを楽しむと共に、梅干し作りや干し柿作り、おはぎ作り等を一緒に行う機会を増やしていく予定にしている。バラ園や桜の木が近くにある事から、気候の良い時には芝生等でお弁当を食べる機会も作りたいと考えている。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の業者に依頼し、バランスのとれた食事作りをしている。ご利用者の体調、状態に合わせ刻み食、ミキサー食にしている。また、ご家族より持ち込まれたドリンク剤、飲み物をとっていただき夜間の水分補給にも努め一日の摂取記録を残すようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをして頂き、状態によっては介助している。(歯間ブラシ使用)夜間は義歯を預かっている。定期的にコップも消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者の排泄のサイクルを把握し、排泄の声かけをし、失敗を防ぐことでプライドを傷つけない自立支援をしている。	各居室にトイレがあり、歩行状態に応じてトイレに近い場所に‘ベッド’の場所を移動している。トイレの場所がわかるように貼り紙をする等の工夫をしており、紙パンツの方も体調に応じてトイレで排泄して頂いている。個別の誘導により、布の下着(パット)に変更できた方や、パット使用量が減った方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、手作りのカスピ海ヨーグルトを摂って頂くようにしている。またリハビリ体操、散歩等して頂き便秘予防に努めている。排便の記録を残し、職員間で連携をとり対応している。ご利用者によっては、排泄の際お腹のマッサージをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に3回午後より、ご利用者の状態に合わせて入浴をしている。待ち時間にグループワークを行い、お茶・おやつを提供をしている。	更衣室、浴室共に広く、ゆったりと入浴できる。入浴の順番にも配慮し、仲の良い方との入浴も楽しまれている。アロマキャンドルを飾ったり、手作りのローズポプリを浴槽に浮かべる等、いつもと違う華やいだ雰囲気も楽しまれている。お風呂好きな方が多く、入浴時の会話も楽しまれており、体調に応じて2人介助も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況に合わせ、各居室、和室にて休息していただいている。夜間の訴え等、受容傾聴し、安心して休まれるよう支援し、センサーマットにて安全確保に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の処方内容書をファイリングし、スタッフルームに置いていつでも確認できるようにしている。服薬変更時は薬の変更後の変化を記録し主治医に報告している。服薬支援、確実に飲んで頂くよう、手渡しをし、飲み込まれるまでの確認をしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳・後片付け・テーブル拭き・ご利用者の能力に合わせ役割分担をしている。またグループワークを利用して、ゲーム・折り紙・パズル・塗り絵・唱歌等にて気分転換の支援をしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くの鳥小屋やバラ園に散歩に出かけている。	職員全員、外出への意識が高まり、外出の機会が増えている。季節の良い時は毎日散歩される方もおられ、初代理事長の銅像がある場所まで歩かれ、手を合わせている方もおられる。季節に応じた花見に出かけたり、三連水車公園や系列施設にある足湯も楽しまれている。甘木歴史資料館では昔の農機具を見る事ができ、会話が弾むひと時となった。地域の行事にも参加し、一緒に食事を楽しまれている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、現金の所持はできない(盗られた、無くなった等の原因になる為)必要な物品はご家族に連絡して、購入して頂くようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の希望があれば、連絡できるよう、また電話の取次ぎも、いつでもできるようにしている。ご本人の希望があれば手紙の代筆、ご本人制作の貼り絵、塗り絵等添えて、ご家族にお送りしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・居室・玄関・廊下は広々とし、ソファが多く置かれて、ゆったりとした時間が作れるようにしている。玄関にはクロール生成水が常時噴霧され、食堂には大型空気清浄器を設置、空気清浄・湿度・室温に配慮している、また建物には全熱交換器「ロスナイ」が設置され、外気との交換、調整ができるようになっている	ベランダのプランターに朝顔の種を蒔き、グリーンカーテンが作られている。廊下の天窓にも日よけカーテンが使われ、日射しの調整が行われている。リビングの窓からは外の風景を眺める事ができ、ベランダには季節の花が咲いており、ご利用者が水やりをして下さっている。エントランスホールも広く、各所にソファがあり、思い思いの場所で寛がれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のソファにて、気の合うご利用者同士が楽しく話ができるようにし、ひとりになりたい時は、和室で休んで頂いたり、居室内にて過ごして頂くようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのもの、使い慣れたタンス・椅子、仏壇等が持ち込まれ、入居前からの暮らしが継続できるようにしている。配置を変えるとき等、ご本人やご家族に提案・了解を得て行っている。	居室前に大きな名前札や写真を貼り、他の利用者と区別ができるよう工夫している。居室も広く、ベッドの置き場所によっては、目隠しになる仕切りが作られている。大切な仏壇や写真、自宅に咲いていた花や鉢花を置かれている方や、テレビやソファ等も持ち込まれ、家族と一緒にレイアウトの工夫がされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下のすべてに手すりが設置しており、安心して移動が出来るようにしている。ご利用者によっては居室内の動線に、手すりに代わる椅子(背もたれ部分利用)をセットして対応している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名: グループホーム ローズハウス いしずえ作成日: 平成 25 年 9 月 1 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。

優先 順位	項目 番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	42	食事の楽しみ(レクリエーション)	月に1回、手作りの楽しみの取り組み	早速、8月23日に手打ちうどんの実演会を実施した。今後も手作りおやつ作りをゲストと共に行って行きたい。	3 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月